



# 船

海にこぎだした人々

宗像の人々は航海技術に優れていて、玄界灘の荒波を越え、朝鮮半島や中国大陸との行き来をしていました。その航海には、「船」が不可欠です。古代から中世にかけて活躍した宗像の海人はどのような「船」を使って航海をしていたのでしょうか。

次に、複数の部材を組み合わせる

## 「船」の歴史

最初の船は、丸太や木の幹をそのまま利用していましたが、その後、枝やアシの束を並べて縛り「いかだ」を作るようになったと考えられています。鶴市の浦入遺跡から発見された5000年前の「丸木舟」です。全長10メートル、幅1メートル、厚さ5センチ程度で、外洋航海も可能だったと考えられています。

次に、複数の部材を組み合わせて船を造るようになります。

古墳時代のころは、丸木舟の回りを板で囲んで波よけにした「準構造船」と呼ばれるもので、全長が12〜20メートルのものが見つかっています。その後

次第に複雑な構造の船を造るようになります。

最終的には、平底の船底に波が入りにくいように板材を立て、仕切板で板材を支える日本独特の「和船」になりました。

見つかっています。

全長34メートル、幅11メートル、排水量350トン、乗員60人



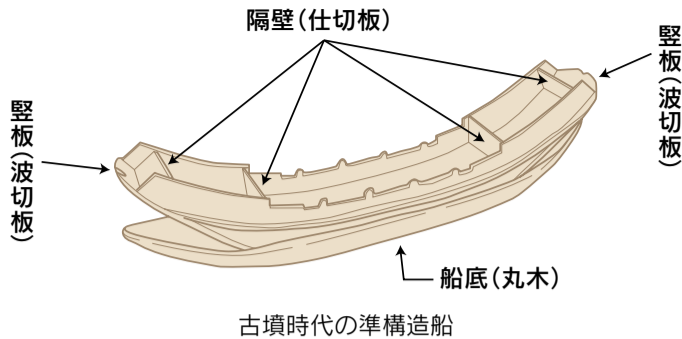
海の道むなかた館に展示中の宋船模型



日宋貿易で輸入された中国の景德鎮産白磁碗

側板(げんそくばん)は船の胴体を形成する板材(か)を隔壁(か)で支える「ジャンク船」と呼ばれています。また、沈没船からは将棋の駒やげたなど、日本人が使っていたと思われるものが見つかり、日本人の船員がいたと考えられています。おそらく、宗像の海人も、このような船を操っていたと考えられます。日宋貿易が実施された平安時代の終わりごろに、このような大きい船を国内で造ることができたのかというところは分かっていませんが、室町時代の終わりごろになると、2500石(こく・約375トン)積の大型船も造られました。

現在、海の道むなかた館で開催中の春の特別展「色定法師(しきじょうほうし)と日宋貿易」では、展示室の中央に「宋船模型(運尾(はすお)正博さん作成、福岡市博物館所蔵)を展示しています。精密に作られていますので、当時の航海に思いをはせてみてはいかがでしょうか。(文化財職員・坂本雄介)



古墳時代の準構造船



筑前沿岸で活躍したテント船と呼ばれる和船

## 宗像の人々が使っていた「船」

現在のところ、宗像市内から「船」の出土例はありません。

しかし、私貿易(遣唐使廃止後に実施された貿易)が盛んだった宋代の沈没船が、中国の福建省泉州(せんしゅう)市で

関連遺産群  
宗像・沖ノ島と  
ふるさとから  
世界遺産を!  
第54回

# 富士山に続け



今月、世界遺産登録予定の「富士山」

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が平成21年1月、ユネスコ世界遺産暫定リストに記載されました。

それから4年、推薦書提出に必要な資産価値の調査や証明、資産や周辺環境の保全対策の検討などを実施。現在、ユネスコ世界遺産センターへ推薦書と同27年2月に提出することを目標に、県や

福津市とともに準備を進めています。

昨年(2012年)2月に推薦書が提出された2件の申請は、イコモス(国際記念

遺産群)が平成21年1月、ユネスコ世界遺産暫定リストに記載されました。

また、「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、今年(2013年)2月に推薦書が提出されました。これらの3件を除いた同リスト記載の資産は10件で、その中から、準備が整ったものから推薦書が提出されます。

今年から、推薦書の提出は1カ国につき年1件となりまし

平成26年2月には、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」と「九州・山口の近代化産業遺産群」

物遺跡会議)の視察の結果、「富士山」は登録、「武家の古都鎌倉」は不登録と報告されました。富士山は、今月開かれる世界遺産委員会で登録が決まる予定です。

また、「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、今年(2013年)2月に推薦書が提出されました。これらの3件を除いた同リスト記載の資産は10件で、その中から、準備が整ったものから推薦書が提出されます。

今年から、推薦書の提出は1カ国につき年1件となりまし

平成26年2月には、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」と「九州・山口の近代化産業遺産群」

問い合わせ先  
世界遺産登録推進室  
(海の道むなかた館)  
☎(62) 2617

問い合わせ先  
郷土文化交流課  
(海の道むなかた館)  
☎(62) 2600